

## まんが王国・土佐推進協議会総会平成 29 年度第 2 回総会（概要）

日 時：平成 30 年 2 月 13 日（火）14:00～15:30

場 所：高知会館

出席者：まんが王国・土佐推進協議会委員 15 名（うち代理出席 2 名）

オブザーバー 1 名（代理出席）、監事 2 名

### （1）議 事

事務局から次の議案について説明があり、意見交換が行われた後、承認された。

第 1 号議案 平成 29 年度まんが王国・土佐推進協議会収支決算見込

第 2 号議案 平成 30 年度まんが王国・土佐推進協議会事業計画及び収支予算

### （2）協議事項

次の協議事項について、事務局からの説明の後、意見交換が行われた。

第 1 号協議 第 27 回全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）実施要綱について

第 2 号協議 第 5 回全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐及び世界まんがセンバツについて

第 3 号協議 まんが王国・土佐情報発信拠点整備について

### （3）報告事項

事務局から次の報告事項について報告があり、承認された。

第 1 号報告 平成 29 年度（下半期）「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

- ・第 4 回全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐の概要
- ・平成 29 年度まんが王国・土佐ポータルサイトの運営状況
- ・平成 29 年度まんが教室の開催状況
- ・平成 29 年度まんがを活かした「コンテンツ創造教育」の推進状況

**第 1 号議案 平成 29 年度まんが王国・土佐推進協議会収支決算見込**

承認

**第 2 号議案 平成 30 年度まんが王国・土佐推進協議会事業計画及び収支予算**

#### 【A 委員】

○関連事業の取組について、ニコニコ超会議への出展とあるが、現在ニコニコ動画の勢いはフェイスブックに負けているとも聞く。メディア戦略の転換にも柔軟に取り組んでほしい。

○ポータルサイトについては日本全国のまんがに関連するイベントや活動などについての情報がまんが王国・土佐ポータルサイトで見られるようになると利用価値が生まれるのではないかと。これまで

やってきた、まんが王国・土佐についての情報発信をメインに、関連した先生の紹介などをすると  
いった取組から、まんがに関することなら何でも載っているとした方が利用度が上がるだろう。

- 他の情報を見に来たついでに高知の情報が目に入り、高知に遊びに行こうかなという気持ちを刺激する形が良いのでは。
- 高知県がまんがと親和性の高いことは他県から見るととても珍しい。まんがが事業化されていること自体がとても特別なこと。この立場を生かして、高知主催の行政の勉強会もしくはサミットをできると良いのではないか。お互いにとって勉強になるし、競合ではない繋がりができて、「まんがといえば高知」というブランド化の固定もできるのではないか。

#### 【事務局長】

- SNS などメディア戦略の活用については、いろいろな方に状況を伺い、最も効果的な形について検討したいと考えています。
- 今年の第 27 回まんが甲子園では、ニコニコ動画による発信と実況中継の実現を進めているところなので、今後の展開の仕方については、第 27 回まんが甲子園の実績も踏まえ検討していきたいと考えています。
- 海外に向けた情報発信については、ポータルサイトの英語ページの作成を考えています。海外から見に来ていただけるようなページを作成し、海外への発信に力を入れていきたいと考えています。
- 行政同士の繋がり、交流については鳥取県と「まんが王国友好通商条約」を結び連携していますが、その他の自治体とも色々と情報交換をしているところなので、協働でなにかできないかということは検討していきたいと考えています。

#### 【尾崎会長】

- 以前は、鳥取県や岩手県等と協働していたが、しばらくやっていないので考えても良いかもしれない。
- 新たに取組もうとしている自治体と一緒に何か取り組むことで行政発信するののも一つの発信力。
- 行政とまんがが密接なタイアップはしてやっていくというのはまだ珍しい環境にあるので、話題になるかもしれない。逆に各県に取組を広げていくという観点からも良いことだと思う。例えば、漫画家大会議でタイアップイベントをやるというのものもあるかもしれない。

#### 【B 委員】

- 国際化に向けてどのように情報発信やっていくかということについては、特に欧米に対してどういうスタンスや形でやっていくかが非常に重要ではないか。
- まんが分野でどのように海外に向けたとっかかりをつくるかということは東南アジアや韓国、シンガポール、台湾に限らず具体的に考え実行していくべき時期ではないか。
- よさこいと同じような形で発信をし、高知の観光や物産に資する形に持って行く方法を考えていけばいいのではないか。

【尾崎会長】

- 昨年、台湾で観光イベントを行った際にまんが甲子園の予選通過校を発表したが、観光 PR よりも反響が大きかった。まんが甲子園については現地で地元高校生にも来てもらう形で発信できる事業展開が理想。
- 海外メディアの招へいを通じて、まんが甲子園の予選に参加しようとする高校生の数をどうやって増やすかが大きなポイント。
- それぞれの国の子ども達の活躍を現地のメディアに撮ってもらいそれを通じて高知が全国、世界に発信される形を目指したい。
- ヨーロッパ向けにどうするかはもう一段先の課題。イベントをきっかけとして、現地のまんが社会と繋がれるとありがたい。

【A 委員】

- 国と地域により、動きの中心が人であるか企業であるかは変わってくる。フランスに関しては人が中心になって動いていく。個人で活躍しているアニメーターや漫画家がたくさんおり、ネットワークもできている。そのネットワークに行政から協力を依頼する形が良いのではないかな。

【尾崎会長】

- 現在、募集の対象としていない欧米やヨーロッパのルートについて教えてもらい、少しずつスタートした方が良さだろう。

【C 委員】

- ポータルサイトについて、高知のまんが文化の発信だけではなく、広くまんが全体を取り扱うことでまんが好きが必ず立ち寄るまとめサイトを目指すのは非常に良い。そこに必ず高知県の情報も入っていると結果的にまんが文化の振興に繋がるし、高知県のボトムアップにも繋がる。
- フランスではジャパンエキスポというイベントが非常に有名だが、10月にまんが博というイベントも開催しており弊社の番組で特集したことがある。そういったイベントについても高知県のサイトで紹介したりすることで連携を作っていく膨らみを持たせられれば良いのではないかな。

【尾崎会長】

- うまい集積がつくれて、多くの人が書き込んでくれるようになるといい。  
まんが関係の人がこれに書き込むといったような。

【C 委員】

- インスタ映えとよく言うように、著作権の問題もあるかもしれないが、まんがもインスタグラムに広げていくと非常に可能性があるのではないかな。

【尾崎会長】

- ポータルサイトがここに書き込めば全国に発信できるという地位を占められるとすごくいい。書き

込むことで広く強力にリリースできるという立場の存在にならないといけないが、何か一挙に有名にする手段はないか。

○漫画家の先生方に色々書き込んでもらいコンテンツを厚くする方法も方法もあるだろうし、大きなアクセスルートを持っている皆さんに助けをいただきたい。

#### 【D 委員】

○アニメを見た後にその舞台へ遊びに行き、地域、地方創生へ貢献という形のビジネスをやっており、5年前から茨城県の大洗町とやっている取組は成功事例の一つになっている。地域とコンテンツを組み合わせでどう盛り上げるかという活動をずっとしている。

○台湾に、宮城県の「Wake Up, Girls!」という作品を使い、プロモーション活動を行った。活動を通じて分かったことは、普通のメディアで旅行の告知をしても全く響かないということ。オタクに特化して、オタクの好むメディアで、オタクの情報を出した上に、少し旅行の情報を入れたところこれが本当にうまくいき、日頃旅行しないような層の人が宮城県に来てくれた。このように海外向けは、広くウェブページを作ってもアクセスしてくれない。すこし特化した情報の出し方を考えなければいけない。

○もう一つ海外でうまくいった事例として、鎌倉を舞台によさこいをテーマにした「ハナヤマタ」というアニメがある。ヨーロッパ、特にフランスとドイツに受けて、よさこいを踊りにかなりの外国人が鎌倉に来ている。ただ「よさこい」だけ言うと日本のいろいろなお祭りの1つにしかならないがアニメありきで発信すると鎌倉に行こうとなっている。

#### 【尾崎会長】

○台湾向けの観光 PR ですごく苦労しているのは、テレビのチャンネルが 200 くらいありリーチが少ないこと。まんがを使いアプローチしていくことを考えた場合に、こういうチャンネルが良いのではないかというものはあるか。

#### 【D 委員】

○台湾はアニメにコアな層とそうではない一般の層にガラッと分かれており、25 歳を超えてまんがを読むのは恥ずかしいという風潮がある。20 歳代より下の世代が好むポータルサイトがあるが、その世代に特化したポータルサイトは2つぐらいしかないで、そういったサイトを狙うべくタイアップしていくと情報発信の意味ではうまくいくのではないか。

○他の国だとフェイスブックが非常に強いのと、「Tokyo Otaku Mode」というフェイスブックの媒体が欧米では大変強い。欧米で情報発信を狙うのであれば、ここが圧倒的に強い。

#### 【E 委員】

○高知空港ビル株式会社の取締役会で、西原理恵子先生の電停まんがの話になった際、まんが王国・土佐らしくて良いとなったが、空港にはまんが関連の場所がないねとなった。空港の活性化の役割としてまんがが活用できるといい。

### 【尾崎会長】

- ポータルサイトの内容の充実を考えた時に、ポータルサイトに書き込むことでプロの漫画家の先生に接触することができるようになると、すごいことではないかと思う。現実的に実現できるかというのはあるが。
- ポータルサイトの覇権を握るには、よっぽどの発信力と同時に内容が図抜けてないといけないと思うが、高知県の強みは漫画家の先生方とのネットワークにある。

### 【F 委員】

- 漫画家とのネットワークは本当にできたと思う。こちらがコンテンツを作って提供する形よりは、いろいろな人に書き込んでもらうという形が一番良いと思う。その中で、先ほど尾崎会長が話したように一般の方との接触の場を設けると、高知のファンになってくれている先生は書き込みをしてくれるだろう。もともと漫画家の先生は描くことが好きだし、みんな気さく。
- 書き込みの監視はしないといけないだろうから、そういった点で大変な部分あるかと思うが、そういうやりとりは是非やってみたい。
- 自分の連載のキャラクターなどは描き込めないだろうが、交流の場としては楽しくていい。

### 【A 委員】

- いいですね。一から場を作るのは難しいだろうから、既存のものにアクセスして集まる方法で出来ればいい。
- SNS で漫画家の先生が投稿した落書きをまとめてポータルサイトに載せるだけでも全然違うのではないか。
- そういったところから始めて、ポータルサイトやコミュニティをどう作るかを研究していくのも良いのではないか。
- 時代によって流行の SNS が変わったり、また SNS 毎に用途に特色があったりするが、それぞれ研究が必要。

### 【尾崎会長】

- SNS で漫画家の先生が描いた画像にリンクを張ったりするのは、先生の上承が必要か。

### 【D 委員】

- 一応法律的に言うと、参照元の URL をつけて画像をそのまま加工せずに置く分にはまず問題ない。ただ、それで人が集まるかという点と厳しいのではないか。
- 現在「ヌマヅノタカラプロジェクト」というのをやっており、「ラブライブ！サンシャイン！！」というアニメで沼津市を盛り上げようという企画をしている。その中で、クラウドファンディングで、アニメのキャラクターがデザインされたマンホールを作って、そのマンホールを沼津市に贈ろうという取組をした。結果2日で2000万円を集めることができた。このマンホールを置くことで作品のファンが現地を訪れる可能性が高くなり、そこに自社のアプリケーションを絡めてGPSと連動してキャラクターが出るということをしている。

- 単に情報がありますだけでは、グーグルで調べて終わりということになるので、そうならないものを少しくついでいく必要がある。
- 飛び抜けている県だと言われるような仕掛けができればすごく良い。

### **第1号協議 第27回全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）実施要綱について**

異議なし

### **第2号協議 第5回全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐について**

#### **【G 委員】**

- 今回の漫画家大会議では、漫画家の先生達が飲みたいということだったのでひろめ市場でもてなすことにした。泥くさい人の繋がりには商店街の得意とするところなので、そういった繋がりからどんどん先生方に高知のファンになってもらいたい。また、それをネットで発信してもらうなどして、他の先生方にも高知の取組に興味をもってもらえたらという思いでやろうとしている。継続してやっていきたい。
- アナログなところでいうと商店街ではよくフラフを飾っている。著作権の問題もあるが、フラフを出すことによって市民・県民に対するアピールになるし、高知は「まんが王国」だということに自信を持ってもらえるようにしたい。

#### **【H 委員】**

- 2020年に高知総文祭があるが、全国から2万人の高校生が集まり引率なども含めると10万人が高知に来る予定。
- 高知文化連盟としてもこの総文祭を一つの契機として、高校生が活躍できそうな場があれば積極的に参加していきたい。
- まんが甲子園に参加した生徒には、この経験をもとに大人になった際にさらに広げていってもらえたらいい。また、大学へ行く生徒が多いので、大学とも何か連携が取れれば。

#### **【I 委員】**

- 全国漫画家大会議について、G委員のフラフの話聞いて思ったが、漫画家大会議をやろうとなった最初、京都精華大学教授の吉村和真先生から「せっかく有名な漫画家さんが高知に来てくれるのだから来られた記念になるものを作ってもらい展示するなどして蓄積できたらいい」という意見が一番最初にあった。フラフをその年の大会議に来る先生に事前に描いてもらって、商店街に早い段階から掲示をするなどしても面白かったのではないかと思う。
- 世界まんがセンバツについては、個人応募か、グループ応募かまんが甲子園に参加招待であればグループ参加かと思うが、ネット応募であれば個人参加なのかと思う。

#### **【事務局長】**

- まんが甲子園への招待については、競技に参加してもらおうのか表彰式をやるのかは検討中だが、広く参加いただくためには、気軽にできる個人参加ではないかと検討している。

#### 【A 委員】

- 世界まんがセンバツについては、日本に行きたいがお金がなくていけないという高校生に対して発信できるとみんな応募してくれるのではないかな。
- 出版社のやるコンテストと違い、「何か描いたらいけるのではないかな」という敷居の低さを前面に押し出すことができれば、日本に行きたいと思っている高校生の応募が集まるのではないかな。
- 全国漫画家大会議のフラフについては、まんが甲子園でもやれば良いと思っていた。まんが甲子園で先生方に描いてもらう寄せ書きをもとにフラフをつくるだけでもすごいものになるのではないかな。全国漫画家大会議でも、まんが甲子園の寄せ書きのように漫画家の先生方に描いてもらうと結構な迫力、名物になるように思う。

#### **第3号議案 まんが王国・土佐情報発信拠点整備について**

異議なし

#### **第1号報告 平成29年度（下半期）「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について**

#### 【I 委員】

- 黒江S介先生や、村上もとか先生といった有名どころの先生のインタビューが載っていると思うが、ポータルサイトでもっとインタビューが掲載されていることが分かるようにできるといいと思う。

#### (4) 閉 会

次回総会は、今年9月を予定